



Title	津軽方言話者のスタイル切換え
Author(s)	阿部, 貴人; 坂口, 直樹
Citation	阪大社会言語学研究ノート. 2002, 4, p. 12-32
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/23196
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

津軽方言話者のスタイル切換え

阿部貴人・坂口直樹

1. 調査の概要

1.1. インフォーマント情報

〔表1〕

	年齢	職業	居住歴
SA	69	農業	0-: 青森県弘前市
SC	66	農業	0-: 青森県弘前市
YA	23	教諭	0-18: 青森県弘前市 18-22: 東京都 22-: 青森県弘前市
YC	23	会社員	0-: 青森県弘前市
YF	25	学生	0-18: 兵庫県姫路市 18-大阪府池田市

1.2. 談話情報

〔表2〕

	話者	話者間の関係	収録時間	談話の展開
老-老	SA-SC	夫婦	31分	SC主導
老-若	SA-YA	祖父と孫	33分	YAが質問、SAが答える
老-調	SA-YF	初対面	39分	YFが質問、SAが答える
若-若	YA-YC	同年代	42分	ほぼ同量の発話
若-調	YA-YF	初対面	46分	YFが質問、YAが答える

2. 結果および考察

2.1. 一人称代名詞

2.1.1. 結果

〔表3〕

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ワタシ系*1	-	-	3	-	-	-
ジブン	-	-	-	-	-	9
オラ系*2*3	1	1	1	-	-	-
ワ系*2	2	3	-	34	15	-

*1 ワタシ系: アタシ・ワダシ・アダシを含む

*2 ワ系・オラ系: 一人称複数を表すワンド・ワンダヂ、オランド・オラダヂを含む

*3 津軽方言では、若年層はオラ系は使用しない。

- (1) SAは、方言話者であるSC・YAにはワ系・オラ系、YFにはオラ系・ワタシ系の切換えがみられる。
- (2) YAでは、《対老》《対若》:《対調》においてワ系:ジブンというカテゴリカルな

切換えがみられる。

- (3) YA のジブンは所属していたサークル(運動部)の影響と思われる。

[1]

→028YA: ですねー。い、高校 1 年の時は 甲子園に行ったんですけどー。(YF: あっ、そうなんですかー)あ、自分は出てないんですけど。(YF: えーえー)応援で行ったんですけど。 [若-調]

2.1.2. 解釈

- (a) 津軽方言では、ワ系は目下・同等の話者に対して用いる。それに対し、オラ系にはそのような制限がない。このため、オラ系は《対調》でも使用されていると
と
思われる。
- (b-1) SA では、対方言話者にはワ系・オラ系、《対調》にはオラ系・ワタシ系が使用されていることから、オラ系は待遇的にニュートラルな形式であると考えられる。
- (b-2) また、ワ系が対方言話者のみに、ワタシ系が《対調》のみに使用されていることから、ワ系→オラ系→ワタシ系といった待遇による位置付けが存在する可能性がある。
- (b-3) あるいは、ワタシ系は方言では使用されない共通語マーカー（その形式の使用が共通語スタイルに限られる）である可能性もある。これについては、対方言話者でフォーマルな談話を設定した場合の切換えの様相を調べる必要がある。
- (c) YA は「ジブン」をフォーマルな形式と位置付けており、フォーマルな場では「ジブン」を使用し、ワタシ系へは切換えられないと思われる。(フォローアップ・インタビューでも確認できている)

2.2. 原因・理由表現

2.2.1. 結果

[表 4 接続助詞]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ノデ*1	-	-	-	-	-	32
カラ	-	-	12	-	-	1
ドゴデ*2	-	2	-	-	-	-
ハ(ン)デ	-	5	-	56	31	-

*1 ノデはンデを含む。

*2 ドゴデは古い形式と意識されており、YA は使用せず、ハンデのみを用いる。

- (1) SA は、《対若》にハ(ン)デ・ドゴデという方言形式を用い、対 YF にカラを使用するといった切換えが見られる。
- (2) YA は、対方言話者(SA・YF)にハ(ン)デ、《対調》にカラ・ノデを使用するといった切換えが見られる。
- (3) YA は共通語「ノデ」が不自然となる発話(1例)以外はノデ(ンデ)を使用している。なお、下に示す〔1〕が不自然なのは、心内発話を示す助詞とのフレームに入っていること、「～からだ」の用法をノデが備えていないことの2つが考えられる。
- 〔2〕
- 143YA:あ、あの 一応 部活の合宿所ってゆうか あの、部活だけの(YF:は-は-は-)例えば、柔道なら柔道の合宿所が多くなっただけの理由もあると思うんですけど、(YF:え-)あと やっぱり そうゆう 寮とかに入らずに一人暮らしして-(YF:は-)楽をしようという(笑) 学生が増えたからだと 思うんですけど。(YF:は-)はい。毎年 減ってますね。 [若-調]
- (4) 接続詞の切換えは以下のように、YA が対方言話者に対して方言形式を、《対調》に対して共通語形式を使用するといった切換えが見られる。

[表 5 接続詞]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ダカラ	-	-	-	-	-	2
ダハンデ	-	-	-	18	21	-
シタハンデ	-	-	-	1	2	-
ダンデ	-	-	3	-	2	-

2.2.2. 解釈

- (a) SA・YA は、それぞれ以下のように、形式を方言・共通語のマーカースとして認識していると考えられる。
- (a-1) SA はカラを《対調》でのみ使用することから、共通語マーカースと捉えていると思われる。
- (a-2) YA は (2) から、カラ・ノデ(ンデ)の両形式を共通語マーカースと位置付け、さらに (3) の結果から、ノデ(ンデ)がより丁寧な形式であるといった意識を持っていると思われる。
- (b) SA・YA の切換えの違いは、形式の対応関係においても現れる。
- (b-1) SA では、ノデの使用が見られないため、ハンデ・ドゴデ=カラといった対応関係を持っていると考えられる。
- (b-2) YA は、方言専用形式ハンデを (3) のような文法的制約によってカラ・ンデに

切り替える。

- (c) 当該方言の中年層は、ノデ・カラを共通語マーカと認識し、さらにドゴデ＝ノデ、ハンデ＝カラといった対応を行っている(阿部 2001)。本調査の老年層・若年層の結果と、阿部(前掲)による中年層の結果から、原因・理由形式の切換えは、図のようなマーカ機能と対応関係によって行われていると考えられる。

[図 1 津軽方言におけるマーカ機能と対応関係]

老年層		中年層		若年層	
方言 マーカ	共通語 マーカ	方言 マーカ	共通語 マーカ	方言 マーカ	共通語 マーカ
ハンデ	カラ	ハンデ	カラ	ハンデ	カラ
ドゴデ		ドゴデ	ノデ		ノデ

2.3. 逆接形式

2.3.1. 結果

[表 6]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ケド類*1	-	4	11	69	29	91
バッテ	2	1	-	23	1	-
ドモ*2	-	1	-	-	-	-

*1 ケド類にはケドモ(1例)を含む。

*2 YA はドモは使用しないと内省している。

- (1) SA は、《対老》にはバッテ、《対若》にはケド・バッテ・ドモ、《対調》にはケド類という連続的な切換えが見られる。
- (2) YA は、方言話者である SA・YC にはバッテとケド類を、《対調》にはケド類のみといった切換えを行っている。
- (3) YA の《対調》におけるケド類は 82%(75/91 例)が言いさし表現(いわゆる終助詞的用法)によるものである。

[3]

→028YA: ですねー。い、高校 1 年の 時は 甲子園に 行ったんですけどー。(YF: あっ、そうですねですかー)あ、自分は 出てないですけど。(YF: えーえー)応援で 行ったんですけど。

029YF: あー。じゃー、あの辺りを いろいろとご存知。

→030YA: いや 応援で 行ったので 別に 遊びに行ったようなものなんですけど。〔若一調〕

2.3.2. 解釈

- (a-1) SA・YA とともに、方言話者にもケド類を使用しており、方言・共通語のマーカ一としての機能は見られない。連続的な切換えとカテゴリカルな切換えは、マーカ一機能を持つ項目(例えば、原因・理由表現)と方言に共通語形式が侵入している項目(逆接)の違いによると考えられる。同様の結果は当該方言の中年層の切換えを分析した阿部(2001)でも確認されている。
- (a-2) このことから、同じ接続助詞の切換えでも、切換えが連続的かカテゴリカルかは、共通語形式の方言への流入状況とも深く関わると考えられる。
- (b) YA は (3) のようにケド類による言いさし表現を《対調》で多用することから、ケド類の言いさし表現が丁寧さを表す機能を持っていると思われる。

2.4. 否定表現

2.4.1. 結果

[表 7*1]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ナイ	-	1	15	-	-	30
ネ(一)	9	21	1	81	43	-

*1 表は「ではないか」相当以外の否定表現を集計したものである。「ではないか」は次節で扱う。

- (1) 内省調査の結果から、SA・YA とともに、ネ(一)とナイを音声的な変異ではなく、形式的な変異と意識している。
- (2) SA は、連続的な切換えではあるが、方言話者(SC・YA)にはほぼネ(一)を用い、《対調》ではナイに切換える。
- (3) SA の《対調》のネ(一)(1例)は可能表現(否定)であり、「ネ(一)」→「ない」の置き換えが当該方言では許容されない場合である。つまり、「のぼらいない」は許容されない。

[4]

150SA:あの はしご 使って。

151YF:あ――。(SA:笑)危ないですねー。

152SA:年寄 だば のぼらいね。[年寄は登れない]

153YF:あー、若い人が[笑]

154SA:んー、若い人。

[老一調]

- (4) YA は、方言話者(SA・YC):《対調》=ネ(一):ナイといったカテゴリカルな切換えが見られる。

2.4.2. 解釈

- (a-1) 当該方言では、従来の方言形式と共通語形式の共起が許容されない場合がある。
(ただし、すべての方言形式／共通語形式の共起が許容されないのではなく、項目によって異なる。詳しくは文法形式を扱った阿部(2001)参照。)
- (a-2) (2) のように、SA は基本的にナイに切替えるものの、(3) のように他の形式との共起関係が切り換えを阻む要因となることもある。その場合の共起とは、文法的形式同士に限らず、本節のように形態音韻論的な環境もあり得る。
- (a-3) 私見では、東北地方の多くの地域で方言形式と共通語形式の共起に許容される項目／許容されない項目が存在するようである。この点が、切替えに影響している可能性もあり、他の地域でも存在するの否かを調べる必要がある。

2.5. ではないか

2.5.1. 結果

[表 8*1]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ジャナイカ	-	-	2	-	-	-
ジャナイガ			4			
デナイガ	-	-	1	-	-	-
デネ(-)ガ	-	8	-	3	2	-

*1 SA・YA の談話で使用されたのは「ではないか 2 類」(田野村 1988)のみである。

- (1) SA の《対調》でのデナイガは、ネ(-)をナイに対応置換させたネオ形式である。

[5]

142SA: んー、やっぱ 違う、昔 みたいに 雪、雪 今年は 多いけど(YF: えー)全般に 少ないね。

(YF: あー) んー。

143YF: 昔は もっと 降ったんですか。

144SA: んー、やっぱり このぐらいは 降ったんでないが。

[老-調]

2.5.2. 解釈

- (a) SA の《対調》の切り換えのあり方として、(i) 文の構造自体を切り替える場合、(ii) 対応置換によって形式を置き換える場合の 2 通りが考えられる。
 - (i) 津軽方言には助詞「ハ」を介する否定構文がない。しかし、「ハ」を介し(= ジャ)
 - デ+ネ(-)+ガ → ジャ+ナイ+カ(ガ) とする場合。

(ii) 助詞「ハ」を介さない方言の構造のまま：

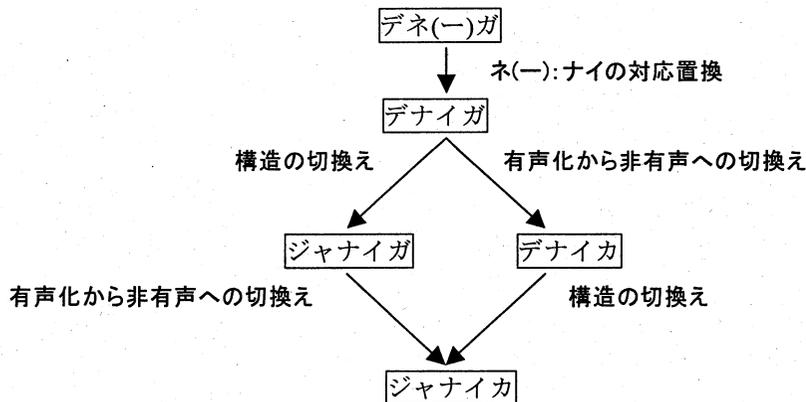
カカネ(-)：カカナイ=デネ(-)ガ：X

X=デナイガ とする場合。

(b) SA のように、対応置換によるネオ形式が使用されるのは、ナイが前節で述べた方言形式と共通語形式の共起において、方言形式とも共起できる形式であるためである。

(c-1) SA で使用されたデナイガが 1 例のみであるため分析が困難であるが、助詞「か」が「ガ」で実現されていることも注目に値する。つまり、「デナイカ」で実現されることがあるとすれば、下図のようなといった切換え方が考えられる。

[図 2 ではないか第 2 類の切換え方(予想図)]



(c-2) 図 2 のような切換えのプロセスがあるとするれば、対応置換の後に構造の切換えといわゆる有声化現象(/h/・/k/)が有声母音間では有声子音で実現される現象)の切換えのどちらが先行するののかといった課題がある。

(c-3) また、形態の切換えと音声・音韻の切換えは独立していることも考えられる。

2.6. ガ格

2.6.1. 結果

[表 9]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ガ	-	-	8(40)	12(12.5)	10(16.4)	46(93.9)
φ	8	16	12(60)	84(87.5)	51(83.6)	3(6.1)

(1) SA は方言話者(SC・YA)では「ガ」が使われず、《対調》で使用される。

(2) YA は、対方言話者(SC・YA)でもガは用いられるものの、《対調》での割合が高い。

2.6.2. 解釈

- (a) 丁寧な談話であると内省する《対調》でSA・YAともに(1)(2)のような切換えを行っていることから、「ガ」を使用することで丁寧さを示していると考えられる。

2.7. ヲ格

2.7.1. 結果

〔表 10〕

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ヲ	-	-	10(40)	-	2(4)	14(43.8)
ゴト	2(22.2)	-	-	1(0.7)	-	-
ト	-	1(6.7)	-	3(4.3)	-	-
トバ	-	-	-	1(0.7)	1(2)	-
φ	7(77.8)	14(93.3)	15(60)	65(94.3)	47(94)	18(56.2)

- (1) SA、YAともに連続的な切り換えである。
 (2) SAは、《対調》で「ヲ」の使用への切換えを行ない、省略の割合が低くなる。
 (3) YAは、《対調》では「ヲ」の使用率が高くなり、SAと同様に省略の割合が低くなる。
 (4) ただし、YAでは、前節のガ格に比べて省略の割合が高い(対 YF: ガ格 6.1%、ヲ格 56.2%)

2.7.2. 解釈

- (a-1) 前節のガ格と同様に、ヲの使用の増加によって丁寧さを示している。
 (a-2) ただし、(4)から、ヲよりもガの使用の方が丁寧さを示す項目として働いていると考えられる。

2.8. ニ格

2.8.1. 結果

〔表 11*1〕

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ニ	-	6	13	-	1	16
サ	4	5	1	37	49	-

*1 表には方向格のほか、変化の結果(～になる)など、共通語「に」相当の用法を含む

- (1) SAは《対老》はサ、《対若》《対調》はサとニといった連続的な切換えが見られ

る。

- (2) SA の《対若》における「ニ」は、人の存在(～にいる、5例)、変化の結果(～になる、1例)である。

〔6〕 人の存在

139YA: どんだんだべな。(SA: 笑)もうちょっとでねが。M(人名)どな、T(人名)な。(SA: んー)K(人名)も 分がるべ?

→140SA: K(人名)も分がる。K(人名)、P リーグに いたどぎがら(YA: んー)S(チーム名)に いたどぎがらな。 [老-若]

〔7〕 変化の結果

085YA: んー、M(人名) だはんで わ J(学校名)で 一年生の 時 K(大会名)さ 行ったつきや (SA: んー)そんな時に 一緒に 来てったんだ だはんで K(大会名)さ。(SA: んー)生で見だんだ M(人名)とば。(SA: んー)やっぱ おつき おつきがったよ。(SA: んー)他の選手 よりも。

→086SA: M(人名)だば あれ いー 選手になるんでねが。 [老-若]

- (3) YA は《対老》には「ニ」を 1例使用するものの、対方言話者にはほぼ「サ」、《対調》には「ニ」という切換えを行っている。

2.8.2. 解釈

- (a) 当該地域の中年層では、「変化の結果」が内省では「サ」であるにもかかわらず、方言談話でも「ニ」のみが使用されるという報告がある(阿部(前掲))。SA では「人の存在」も同様である可能性がある。
- (b) つまり、共通語形式の取り入れが関係しているのである。
- (b-1) ある用法に共通語形式が完全に取り入れられているのだとすれば、それは切換えではない。
- (b-2) しかし、ある用法において、方言形式と取り入れられた共通語形式が共存する状況であれば、その用法が切換え切換えやすいなどの可能性がある。このことを検証するためには、内省調査と多くの談話例が必要であり課題となる。

2.9. 推量形式

2.9.1. 結果

〔表 12*1〕

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
デシヨ	-	-	1	-	-	-
べ	2	12	1	52	28	-
ビヨン*2	1	4	1	3	11	-

*1 確認要求用法は見られない。

*2 「ビヨン」は「べ」に文末詞「オン」が下接した形式である

- (1) SA の《対調》では 1 例ではあるが「べ」「ビヨン」が用いられており、連続的な切換えとなっている。

〔8〕

046SA:それがら の、農協、農協でも、やっています。

047YF:あー。昔から、林檎と、お米 だったんですか？

→048SA:んーと、途中で 増やしたから、ま、林檎と、米だべな、昔っから。

〔9〕

130SA:馬、えーと、私 やってら 時 一頭だけど、やる前は 二頭だったって。

131YF:は一、どんな 馬でした？

→132SA:んー、気性が 荒い、(YF:笑)馬だったなー。(YF:えー)扱う 人にも よるんだ びよん。

〔10〕

196SA:んー、昔は 泳げたけど、最近は ちょっと あの 泳げないんじゃないがな(YF:あー)あの
およ、泳ぐと おごらいるんじゃないが。

197YI:え、それは どうしてですか。

→198SA:危険性 あるから でしょ。

〔老ー調〕

- (2) 《対調》では、SA は推量形式をあまり用いず、YA では全く見られない。

2.9.2. 解釈

- (a) 切換えとは関わらないが、推量形式は聞き手めあて性の低い表現になる可能性がある。丁寧さが要求される(と意識される)《対調》では、聞き手めあて性の低い表現が避けられ、これによって(2)のように推量形式の使用が控えられるのではないか。

- (b) 確認要求用法も、フォーマル場面では避けられるものと思われる。SA、YA は《対調》でほとんど質問をしておらず(YA で 1 例)、談話の展開のあり方とも関係するところである。

2.10. とりたて助詞

2.10.1. 結果

[表 13]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ハ	-	6	49	9	19	56
ダバ	4	14	1	17	12	-
キャ	1	-	-	8	3	-

- (1) SA・YA ともに連続的な切り換えである。
 (2) SA の《対若》での「ハ」は、6 例中 4 例が直前の YA の発話(質問)で「は」が使用されている場合である。

[11]

033YA:だんで 野球 す、お母さんがら 聞いたんだけどー、野球 だはんで、(SA:ん)あの H おじちゃんさ H って つけだって(SA:んー)N(人名) 好きだ はんで って。(SA:んだ)今でも 野球は 見るんだよな。

→034SA:野球は 見でる。

2.10.2. 解釈

- (a) (1) から、SA の《対若》での「ハ」は、相手の発話にアコモデーションした結果と考えられる。

2.11. 丁寧形式

2.11.1. 結果

[表 14*¹ 丁寧形式の有無]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
丁寧形式	-	-	17	-	-	129

*1 表は丁寧形式が使用されるか否かのための集計である。

[表 15*¹ SA の対調における丁寧形式を含む発話と他の形式]

	項目数	方言形式	共通語形式	方言の項目	共通語の項目
発話 1	3	1	2	二格	二格、原因・理由形式
発話 2	1	-	1	-	二格
発話 3	1	-	1	-	否定辞
発話 4	1	-	1	-	原因・理由形式
発話 5	1	-	1	-	二格
発話 6	1	-	1	-	逆接形式

*1 表は、SA の対調の丁寧形式を含む発話中に現れる項目(本稿で扱った項目)において、方言形式と共通語形式のどちらが使用されているかを示したものである。丁寧形式が使用された 17 発話中 11 発話は切換えに与る項目がない。

- (1) 表 14 から、SA・YA は対方言話者には丁寧形式が使用せず、《対調》にのみ使用することが分かる。
- (2) 用例数は少ないが、表 15 のように、丁寧形式が使用されている発話では、他の項目も共通語形式に切換えられている。
- (3) 表 15 では方言形式が 1 例使用されているが、以下のように自己修正を行った発話である。

[12]

009YF: えー。十月ぐらいに もう できるんですか？

→010SA: んーと、林檎^さ、林檎の 作業^に かかるからー(YF: はー)大体 あの ばらばらです(YF: え)あの 作業は。(YF: あー)田んぼの 作業は。[老-調]

2.11.2. 解釈

- (a) 阿部(2001)の中年層に対する調査では、丁寧形式が使用される発話内では他の項目も共通語形式のみが使用されることを確認した。本稿の結果も表 15 のように、自己修正した発話を除いて共通語形式に切り換っている。
- (b) だとすると、上述の二格、原因・理由形式、否定辞(否定表現)、逆接形式の切換えの結果にも関わっていることになる。したがって、切換えは項目ごとの分析の他に、項目間をクロスさせた分析も必要となる可能性がある。

2.12. 様態

2.12.1. 結果

[表 16*¹]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
ヨウダ	-	-	1	-	-	5

ンタ 7 4 - 1 2 -
 *1 談話では連体形のみ使用されている。

- (1) SA、YA ともにカテゴリカルな切り換えがみられる。切換えの実例を、YA の発話で代表して以下にあげる。

[13]

030SA: 青年団 だなー。(YA: おーおーおー) 青年団 って どころ 二十、二十、二十二、三 がら、
 二十四、五 ぐらい まで だべなー。(YA: んーんー) んー。

→031YA: へば 今で 言えば そいごそ 草野球 みてんた もんだんだべ。

032SA: 草野球 だな。(YA: おーおー) うん。 [老-若]

[14]

132YF: はー。じゃー、全科目じゃないですけど 全種目みたいなのは、

→133YA: そうですねー 大体 ま 皆さんが知ってるような競技は すべてやりますけど。 [若-調]

2.13. 引用形式

2.13.1. 結果

[表 17]

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
テイウ	-	-	-	-	-	9
ツツ(一)	-	-	-	13	9	-

- (1) YA において方言話者(SA・YC)のツツ(一)、《対調》のテイウといったカテゴリカルな切り換えがみられる。

[15]

→123Y: んー。なんだが 中学校のどぎ もう 肩 壊したとがってー。(SA: んー) んー。で、手術してがら、高校さ来たってー。(SA: んー) んー。で、やっぱ 来たけど、投げらいねがったはんでー、やめだつつ 話だ けどもー。

[16]

→115YA: あー。(YF: んー) じゃあ、ラグビーは あの けっこ[結構] 好きなんで 見に行ったりしたんですよ。大学、(YF: あ、そうなんですか)で、ラグビー部の友達もいたんで(YF: えー) 結構 見に行ったんですけど。

2.14. 談話マーカ

2.14.1. 結果

〔表 18〕

	老 (SA)			若 (YA)		
	対老	対若	対調	対若	対老	対調
じゃ(あ)	-	-	-	-	-	1
へば	-	-	-	16	12	-
ヒヤ(一)	-	-	-	9	7	-

- (1) YA においてカテゴリーカルな切り換えがみられる。

〔17〕

→011YA:ん、へば、おじちゃん達の 時って、学校で 部活 とが って あったの。

012SA:ながった みたいだなー。

〔老-若〕

2.15. その他の項目

- (1) 本ノートの高知方言で取りあげられたノダと断定辞は、津軽方言ではバリエーションがないため、取りあげなかった。
- (2) 縮約形は「～シニャ」(～しなければ)のように、縮約された形式のみが使用され、切り換えの対象となっていない。
- (3) あいづちは共通語談話では見られないため(応答詞はある)、分析対象としなかった。ただし、東北方言の場合、ンダをあいづちとして扱うか否かといった問題があり、分析する余地がある。

3. まとめ

- (a) SA で切り換えが見られた項目は、その項目の使用例が全く現れなかった引用形式と談話マーカ以外のすべての項目においてである。一方、YA では全ての項目で切り換えが見られた。
- (b) 切り換えのあり方
- (b-1) 「方言形式 対 共通語形式」といった観点で見ると、SA の切り換え方は、「SC・YA 対 YF」という切り換え、「SC→YA→YF」のような連続的な切り換えであり、2つの方言形式による切り換え(方言体系内部での切り換え)は見られない。
- (b-2) YA の切り換えも方言体系内部での切り換えは見られず、「YC・SA 対 YF」と「YC→SA→YF」といった切り換えである。
- (b-3) SA、YA とともに、それぞれ「SC・YA 対 YF」「SA・YC 対 YF」という対立型の項目が多い。特に YA はその傾向が強い。

- (b-4) 連続的な分布を見せるのは、逆接形式、ガ格、ヲ格、ニ格(SAのみ)、推量形式(SAのみ)、とりたて助詞であり、助詞がこのタイプをとる場合が多い。
- (b-5) 他の方言形式との共起関係(制約)、構造の切り換えと対応置換(ネオ形式による切り換え)、共通語形式の方言への取り入れ(可変的な切り換えとなる可能性がある)、アコモデーションが切り換えに関わっている。
- (c) 以上から、津軽方言話者の切換えには、年層を問わず、方言対共通語といった対立が存在し、共通語への切換えを目指す。しかし、老年層では切換え能力が完全ではなく、その結果として連続的な切換えの様相がみえると思われる。

- (d-1) ただし、SAの切換えは恣意的ではなく、1つの発話内に共通語形式が連続することが多い。

[18]

057YI:あ、そんなに 昔から。

→058SA:今 わたしさ、その一 やってない、やってない って 言うが、あの一、先頭に 立って、
やってない から一、(YF:あ一)長男が やってる から。

059YF:え一、へー。林檎の 林檎畑 って 言うんですか、は、この 近所なんですか？

【老一調】

- (d-2) このことから、発話ごとの分析、談話での位置といった分析単位によって分析を行うことも必要であろう。

(e) 切り換えの基準

- (e-1) (a-1)の「SC・YA対YF」「SA・YC対YF」といった対立から、改まり・親疎関係を基準として切り替えているとも考えられる。
- (e-2) しかし、当該方言の場合、「方言話者 対 非方言話者」といった対立の可能性もあり、検討する余地がある。
- (e-3) 「SC対YA・YF」「SA対YC・YF」といった対立型が見られないことから、「年齢」は切り換えの基準となっていないことが分かる。

4. 展望

本稿では津軽方言話者のスタイル切換えについて、文法形式を中心に分析してきた。各項目の分析中であげた課題群に取り組むことによって、津軽方言話者におけるスタイル切換えを究明するだけでなく、他の地点との比較によってスタイル切換えの類型も明らかになると思われる。また、分析で度々述べたように、切換えには共通語形式の方言への取り込みが深く関わっている。スタイル切換えの研究を進め、取り込み方との関係についても新たな見解が見出せるかもしれない。

なお、本稿では文法形式を中心に分析を行ったが、§2.5でも触れたように当該方言には音声・音韻にも方言的特徴が存在する。特に東北地方は単音レベルでも方言的特徴が多く、単音レベルと韻律的レベルの相違も分析すべきテーマである。これについては、談話での音声・音韻の分析方法を含め、今後の課題としたい。

《引用文献》

- 阿部貴人 (2001) 『青森県弘前市方言話者の標準語スタイルの記述 —コード切り替えの観点から—』大阪大学大学院文学研究科修士論文
田野村忠温 (1988) 「否定疑問小考」『国語学』152

あべ たかひと (大阪大学大学院研究生)

t_abe@d9.dion.ne.jp

さかぐち なおき (大阪大学大学院生)

cde76290@par.odn.ne.jp

[老-老]

調査日時：2000年3月17日

調査場所：SA宅

話題：子供の頃の遊び → 昔の生活 → 青年団の頃の活動

- 001SA: ビー玉 って すーの な やったな?
 002SC: ビー玉?
 003SA: ビー玉 っが あの、
 004SC: おら だっきゃ そ、あのー じっちゃどー わ
 どち、違ーる どごで 育ってーる もんだ ど
 ごで、違うべ?
 005SA: ん
 006SC: ん。じっちゃはー ころで 育てー だはん
 で おら達の 遊びど まだ 違うねな。
 007SA: 違うな。
 008SC: ん。おら ちせ時の 遊びはよ、あいだ でや
 ーな なんて へば ーい、
 009SA: ビダ、ビダ ごと なんて すーんだがさ。
 010SC: あい、あれ ごと な?
 011SA: なんて すんだっけ。
 012SC: あれ ごと、あれ ごと、こちの 言葉で 言
 えば ビダ だではな。(SA: んー) ん。
 013SA: ん、ビダだ、ビダだばって、(SC: ん) なんて
 すーんだっけなー。
 014SC: んー。おらだば まだ あのー 違うね あの、
 ーら。なんて すんだ、ガラスで できだー、
 んー、玉。
 015SA: んー、んでは。
 016SC: んーんー、あれ やったりー そいさ 石蹴り
 ー んだべ? (SA: んー) ん、石蹴りだの そ
 れがら あの あいだの だべ? わーい、ん
 とー、縄跳びだではな。(SA: んー) 縄跳び。
 刀。男どは刀。(SA: んー) 女どは、あのー、
 あれ、お手玉 だではな。お手玉 やって 遊
 んだしー。(SA: んー) んー。そいがら ずっ
 と おら 野球 みたいだ ものも やったん
 だよ。
 017SA: **、野球、やったね。
 018SC: んー、ちせー 時
 019SA: ベース って、すんだな?
 020SC: あの こう 石 置いてよー (SA: んー) こう
 置いてあ なんだがさ やって こうやって 取
 ったんだよ あの ボール ごと。(SA: んー)

じちゃど だば、どんだがさ わがらね ぼっ
 て、

- 021SA: そしたんず、やったな。
 022SC: んー、そしてー あの 1円の 金こ であ (SA:
 んー) あんこ てあ 穴 掘ってあ (SA: んー)
 そして あのー ば、あの き、場所 決めて
 あ (SA: ん) 穴さ こう へればとにいーず、
 それも やったよ。そたの やねが?
 023SA: そいだば やね した。
 024SC: ん?
 025SA: そすたの やね した。
 026SC: おらほ だば やったね そつたの。んー。そ
 したの やってあ、
 027SA: や、はてね んでは。
 028SC: や、はてらんだよー。は****がら、したは
 んではじめ あの、みな はってる はんで、
 しゃべねば まいんずよ。とっこ してれば{笑
 い} {笑いながら}まい ではな そーして そ
 うして、しゃべらいで やってる もだもの 30
 分も しゃべねんだば まい ではな、どーし
 てー。んー。それも やったしー。んー。おら
 どご だっきゃ、そんだよー。こごだば どん
 だがさ、おらど 違った 生活してる もんだ
 どごで おらどごだば そうして そたず か
 もねしても ーい って、そたず みな はれ
 ば まね はんで、かもねしても い って。
 んー。そたずも、遊びも やったしー。 野
 球 みたいだ もの、今 考えれば、何だが わ
 がんね けどもー、あの、ちせ、あそ、時だば
 そうしてやったし、こんだ、スキーだ。(SA:
 んー) 冬さ なれば、スキー。夏さ なれば あ
 のー、川さ 行てー (SA: んー) あの、水遊
 びだではな。(SA: んー) んー。水遊びだ。
 んーんー でねぐ しゃべこやー まいではば
 {笑い} {笑いながら}わーばり しゃべって そ
 いさ さん ったって まい ではな。どーし
 てー。{笑い}
 029SA: だって 頭さ パッパど こねーね。
 030SC: ん?
 031SA: 頭さ パッパど こねー。
 032SC: んー、んだではー。そしてー なんてすーな?
 春がらやれば、春、遅ぐ雪けるどごで、あのー
 親だづー あの、あいだではな、山さ行けばー
 (SA: んー) 一番先に、マンサグの花 取って
 きてー、飾ったもんだって。(SA: んー) んー。

〔老一若〕

調査日時：2000年3月20日

調査場所：SA宅

話題：野球 → 孫の話 → 昔の車 → 孫の話

001YA：へば 何だ 野球の 話 さにやー まいんだ
べな。
002SA：野球の 話。
003YA：おじーちゃん 野球 やってっただべ。
004SA：んー、野球、ちょっとなー。
005YA：ちせー 時 やったっきゃ、そ、外で。
006SA：んー。
007YA：覚いでね？
008SA：思い出すな。
009YA：ちっちえ 時 よぐ やったっきゃ、外で。
010SA：んだ。
011YA：ん、へば、おじーちゃん達の 時って、学校で
部活 とが って あったの。
012SA：ながった みたいだなー。
013YA：へば、野球 やってっただべ 言えば、そい
ごそ 仲間うちで、やってっただべ。
014SA：戦時中、でっただべ ところで 野球は ほとんど 中
止 だなー。
015YA：ん、へば ちせー 時 みんなで 遊んだ と
が、そんな 感じ？
016SA：んー、んだな。あ、あの なんて 言うんだ
っけ、あれ、あの なん、おら ビダ って 言
うんだけど、なんて 言うんだっけ あれ。
017YA：何だべ。
018SA：こうゆう、こうゆう、こうゆうの ビダ って
言うの あれ なんて 言うんだっけ あれな。
019YA：お面？
020SA：んー、んー、ん？
021YA：あの こう 叩ぐ やづ？
022SA：んー、こうやって、
023YA：ひっくり返す やづ？ (SA：んー) んー、んー
んー。
024SA：あれー、あれーと そいがら あの なんて 言
うんだっけ、こうゆう 玉の やづ。
025YA：んー、ビー玉。
026SA：ビー玉。(YA：んー) んー。あれやったなー。
027YA：あ、ひゃー 野球は たんだ あいだんだ、こ
う 仲間うちで 遊んだ っつーが。(SA：ん
ー、んだな) んー。

そいでも 野球 好きだったんだべ？

028SA：ん、好きで 学校 卒業 してがら やったな
ー。(YA：んー) んー。
029YA：あ、へば そいごそ この辺の 人達で 集ま
って？ (SA：んー) んー。
030SA：青年団 だなー。(YA：おーおーおー) 青年団
って だら 二十、二十、二十二、三 がら、
二十四、五 ぐらい まで だべなー。(YA：
んーんー) んー。
031YA：へば 今で 言えば そいごそ 草野球 みて
んた もんだんだべ。
032SA：草野球 だな。(YA：おーおー) うん。
033YA：だんで 野球 す、お母さんがら 聞いたんだ
けどー、野球 だはんで、(SA：ん) あの 博
史おじちゃんさ 博史 って つけだっただべ (SA：
んー) 中村好きだ はんで っただべ。(SA：んだ)
今でも 野球は 見るんだよな。
034SA：野球は 見でる。
035YA：ん、へば、ど、どこの チーム 好きだんだべ。
036SA：今だば 今 だべ どの フアン だべな。
037YA：ベアーズでは ねーの？
038SA：ベアーズで だば ねーな。
039YA：あ、んだんだ。
040SA：んー、ま、K 強い はんで 見るけどな。
041YA：んー。ん、へば 昔 中村って 何だっけ (SA：
**) 今で 言えば シャークス(チーム名)だが？
(SA：**) シャークスだが？
042SA：N2。(YA：うん) N2 だが。(YA：んーんー
んー) に だが いでっただべ いな。(YA：
おー) 頭さ パツと こねー わげよ(笑) (YA：
ん?) 頭さ パツと (YA：んーんー) パツパ
ど。
043YA：んー。ひゃー 今でも 野球は見るんだ。
044SA：野球は見でるな。
045YA：んー。ベアーズな、ベアーズ、いーのばいあ
づめちゅーけど (SA：んー) そいでも 勝てね
っきゃ。
046SA：勝てねねなー。
047YA：んー。あんまり いーの あづめづぎだんだい
な。
048SA：んだんだな。
049YA：みんな ホームラン ホームランばい 打つや

〔老一調〕

調査日時：2000年3月17日

調査場所：SA宅

話題：SAの仕事 → 昔の遊び → 昔のことば

- 001YF：どうも初めまして 西村です。今日は いろいろと 教えて下さい。ここは 今は 農業を なさってるんですか？
- 002SA：んー、年だから、(YF：えー) もう引退って 言えば いいのがな。(YF：あー) 手伝っては いるけど。
- 003YF：どんなものを作ってるんですか？
- 004SA：林檎と米。
- 005YF：はー。この 辺りですと、田植えとかは いつ頃に なるんですか？
- 006SA：田植えは 早い 人で 5月の末頃 かなー。5月の 20日ごろ かなー (YF：はー) 早い 人で。(YF：えー) 遅い 人で 5月、の 末頃 なるなー。
- 007YF：んー。でー、草 取ったりして (SA：ん) 全部は じゃ 稲刈りとかは いつ頃に。
- 008SA：稲刈りも あります。
- 009YF：えー。十月ぐらいに もう できるんですか？
- 010SA：んーと、林檎さ 林檎の 作業に かかるからー (YF：はー) 大体あの ばらばらです (YF：え) あの 作業は。(YF：あー) 田んぼの 作業は。
- 011YF：あ、そうなんですか。林檎の 作業 っていうのは、どうゆうふうになさるんですか。
- 012SA：林檎の 作業は あの 袋 かけるのも、ある、(YF：えー) 袋 かける っていうのは、袋 かけて それから、袋 はいで、着色するわけです。
- 013YF：えー。それは どうゆうふうにして。
- 014SA：んー、袋 かければ あの ちゃ、着色 しやすいんです。
- 015YF：あー。じゃー、全部 実 ひとつひとつに、袋を かける、
- 016SA：んー、そう。
- 017YF：あー。1枚だけでですか？
- 018SA：いや、今 三十袋 多いのは 三十袋、とか、二十袋 とか、
- 019YF：あー。沢山 ですねー。この辺り 林檎の 品種は 何、に なるんですか？
- 020SA：品種は 一番 多いのは、フジ、フジ だね。
- 021YF：フジ、はー、フジ 以外にも。
- 022SA：フジ とか、ムツ とか、(YF：あー) 世界ー とか、品種は だいぶ あります。
- 023YF：あ、そうですか。一番 多いのが フジ。
- 024SA：フジ だね。
- 025YF：んー。収穫 っていうのは いつ頃に なるんですか。
- 026SA：フジは 11月のはじめ頃です。
- 027YF：あー。それで 出荷ということに。
- 028SA：えー、そう。
- 029YF：あー。その辺り まとめて 出荷するんですか、それとも、ここーの 家で 出荷するという かに。
- 030SA：んー、様々です。
- 031YF：どれぐらい 取れるんですか、何トン とか。
- 032SA：家では 箱数、箱 っていうのがなー、(YF：えー) 林檎 箱数 っていうのがなー、
- 033YF：どれ、普通の 林檎の 箱ですか？
- 034SA：んー (YF：えー) 木箱。
- 035YF：はい、え、木箱ですか。
- 036SA：ん
- 037YF：どれぐらいの 大きさですか。
- 038SA：んーと、高さは、高さは 30センチ ぐらいで (YF：え) ん、長さは、どのぐらい、なるのが。
- 039YF：あー。この机の、半分ぐらいですか。
- 040SA：ん、半分くらい。
- 041YF：結構 おっきいですね。(SA：んー) へー。
- 042SA：***、木箱 入れて、出荷す、出荷 っていうのは、あのー 市場へ 出すわけ。
- 043YF：あー。市場はどこ、青森市ですか、弘前市。
- 044SA：弘前。
- 045YF：あー、じゃ、そこまで 持って行って、(SA：えー) んー。
- 046SA：それからの、農協、農協でも、やっています。
- 047YF：あー。昔から、林檎と、お米だったんですか？
- 048SA：んーと、途中で増やしながら、ま、林檎と、米だべな、昔から。
- 049YF：あー。やっぱり 昔と今とでは、作業とか、全然違いますか？
- 050SA：違います。
- 051YF：あー、どうゆうところがー。

〔若一若〕

調査日時：2000年3月19日

調査場所：YA宅

話題：仕事 → 野球 → 高校時代の部活 → 友人の話

001YC：今日仕事休みだったんず？
 002YA：あー。
 003YC：今日何曜日だっけ、今日、休みだず？
 004YA：うん。
 005YC：あ、んだんずな。ひゃー おめー
 006YA：安藤、休みだんずな。
 007YC：あー。
 008YA：安藤、今も教えちゅーんだべ。
 009YC：あ、週2回だぼってな。
 010YA：あ、んだんず？
 011YC：あんまし 行かいねしよ。
 012YA：あー、んだべ。
 013YC：おめーも 忙しつー 話だばな。
 014YA：んー、今な、忙し一時期だんだいな。
 015YC：んー。
 016YA：夜 9時ぐらいだべな。
 017YC：家さ 帰るんず？
 018YA：んー。ま、いつもでは ねーけど。最近 続
 いちゅー。
 019YC：あー。
 020YA：おめも 忙しんず。
 021YC：まーな。だぼって、別に 残業って あるわけ
 でねーし。(YC：んー) 部活は行がにゃーまい
 けど。(YC：んー) 部活ったって、ただ見ちゅ
 ーただだはんでな。
 022YA：あ、んだの。
 023YC：見ちゅーだけつーが、あんまし 手出すわけ
 にもいがねーはんでよ。わ 顧問でもねーし。
 024YA：あー、そっか。
 025YC：いま それに、陸上だんだ。
 026YA：あ、んだんず、野球でねーの。
 027YC：野球 もう先生いるし。
 028YA：陸上 教えにいんずな(笑い) 走るんず。
 029YC：わっきゃ 走んねーいな。
 030YA：大学のとき 陸上って 習った？
 031YC：ま、やるにはやったや。(YC：おー) だぼって、
 授業でやるんずど まだ 違うばな。
 032YA：んだいな。

033YC：大会さ 連れて行がにゃーまいはんで、その書
 類とが、な。
 034YA：あー、書がにゃーまいんだべ。
 035YC：あー。だぼって、ちょっとだけどな。
 036YA：野球は教えねんずな、教えらいねんずな。
 037YC：野球って やっぱ 教えて一人 いるばな、い
 っぺー。(YC：あー) 一番 大変だんずな。
 038YA：んだいな。だぼって、中学校だば そんなでね
 ーんでねーの。
 039YC：学校によるべ。
 040YA：あー、んだいな。
 041YC：ま、高校ほどでねーはんでな。つーが、高校に
 もよるけどよ。それによ、中学校、軟式だばな。
 (YC：ん) 高校の野球ど 全然違うしよ。
 042YA：飛ばねーべ。
 043YC：飛ばね。ま、金属バットだぼって。
 044YA：もう たげ 木さ慣れだべよ。
 045YC：んー。金属 感覚つかめね。
 046YA：んだいな。わ 木使ったごとねーはんで、わが
 んねぼって。
 047YC：でも わんど 竹で練習したばな。(YC：ん)
 最初っから 金属さ慣れでまっちゅーはんで、
 あの、小学校の時から。そせばもうまいばな。
 ま、高校さ入ってが慣れればまいーんだぼって。
 (YC：ん) そー簡単にいがねーねな。芯外れで
 もいーんだはんで。
 048YA：ひゃー しばらく 陸上だんず？
 049YC：分かんねー。来年何さなるがとが、まず 分か
 んねーんだいな。
 050YA：今年は陸上だんだべ。
 051YC：今年はな。
 052Y：強えーんだな。
 053YC：んー、まーまーだな。一応 県大会さも 出ち
 ゅーし、ま、県止まりだぼって。
 054Y：ひゃー、大変だばな。
 055YC：いや、わーばりでねーんだ。
 056Y：あ、んだんずな。(YA：ん) 他にもいるんだな。
 057YC：んー。いにゃーまいんだね。
 058Y：ん？ ってへば。部長？
 059YC：部長でねぐ、その、専任もいにゃーまいでば
 わーばりだば。
 060Y：あー、んだんだ。
 061YC：なんか、ありゃーまいしよ。
 062Y：怪我とが？

